

# 茨城大学学報

第279号

平成20年6月～平成20年7月



オープンキャンパスで来場者を迎える教職員

## INDEX

- ◆ 4 大学院先進創生情報学教育研究プログラム開講式
- ◆ いばらき地域サステナ・ワークショップ開催
- ◆ キャンパスクリーン大作戦
- ◆ 日本フルブライトメモリアル基金米国教育者訪問団来学
- ◆ 学生自主企画展示「文字をさわろう！」開催
- ◆ 茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会
- ◆ 茨城大学名誉教授称号授与式
- ◆ 体育祭開催
- ◆ 図書館でマヤ文明展・講演会を開催
- ◆ 第1回阿見町・農学部連携ワークショップ開催
- ◆ 農学部—東京医科大霞ヶ浦病院「第1回研究交流セミナー」開催
- ◆ 農学部オープンキャンパス開催
- ◆ 工学部オープンキャンパス開催
- ◆ 2008 茨城大学オープンキャンパス開催
- ◆ 農学部で「特別講演会」・「平成20年度第1回FD研修会開催」
- ◆ 茨城県教育委員会と教育学部との連絡協議会

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆「4大学院先進創生情報学教育研究プログラム」の開講式が挙

埼玉大、群馬大、宇都宮大の3大学と本学との「4大学院先進創生情報学教育研究プログラム」の開講式が平成20年6月3日行われました。開講式は日立キャンパスにおいて、インターネットによるテレビ会議システムを利用して行われ、本学では、菊池学長、山形副学長、白石理工学研究科長、田切学長特別補佐を始め、授業担当教員及び受講生らが出席しました。

出席者が見守るなか、各大学の様子が映し出された画面から、まず、議長である埼玉大学の川橋正昭理事の挨拶があり、続いて各大学の学長が、本プログラムに対する期待を述べました。その中で、菊池学長は、「社会が必要としている人材を育成するという点で本プログラムにたいへん期待している」と述べ、開講式は滞りなく終了しました。

開講式終了後、引き続き第1回目の授業である「コンピュータアーキテクチャとOS」が行われ、学生らは熱心に遠隔講義を受講していました。

今後、4大学がそれぞれ得意とする領域が組み合わされたカリキュラムにより、受講学生は実践力を重視した専門能力の育成を目指した高度なIT技術を習得することになります。



テレビ会議システムによる開講式の様子（左から、田切学長特別補佐、白石理工学研究科長、山形副学長、菊池学長、上田教員）

## ◆ 第2回いばらき地域サステナ・ワークショップを開催

茨城大学の地球変動適応科学研究機関（IGAS）や地域総合研究所などの主催による第2回いばらき地域サステナ・ワークショップが6月4日（水）に茨城大学理学部K棟1階インタビュースタジオにて開催されました。第1回目のワークショップの盛況を受けて、今回も学内外から多くの参加者が集まりました。

持続可能な地域社会の構築に向けて、地球温暖化問題の克服は避けては通れない地域が直面する課題です。現在、地球温暖化防止やごみ減量・リサイクルなどの様々な環境活動が地域レベル・市民レベルで盛んに行われていますが、茨城県内においても行政・産業・市民団体などの各団体や社会セクターにおいて様々な環境活動が展開されています。

今回のワークショップの第1部では、各団体の取り組みや抱えている問題についての情報を共有すべく5つの活動報告が行われました。ここでは自治体の地球温暖化防止活動、事業活動における省エネ実績、市民グループによる環境教育・啓蒙活動などの地道な取り組みが数多く紹介されました。

そしてワークショップの第2部では、環境活動に関する情報共有のあり方や茨城県における環境戦略が議論されました。BDF（バイオディーゼル燃料）利用の現状と課題、小中学校における省エネ削減分還元プログラムの導入の提案、環境ビジネスの検討など活発な意見交換が行われました。

また今後のいばらき地域サステナ・ワークショップの活動方針も話し合われました。その結果、各団体間の情報共有ネットワークを構築し茨城県内における環境戦略をより具体化させていくことを目標に、学外協力者も含めた交流部会が結成されるに至りました。



各団体の報告に熱心に聞き入る参加者



コメントする三村機関長

## ◆ 環境の日にキャンパスクリーン大作戦

環境美化運動の一環として「環境の日」(6月5日)に水戸キャンパスで教職員によるキャンパス構内外の一斉清掃活動を「キャンパスクリーン大作戦」と名付けて実施しました。

これは、環境月間の取組みとして、教職員約100名が参加し、キャンパス内外の一斉清掃をするもので毎年行われています。

キャンパス外の周辺の道路のゴミや空き缶等の撤去、除草を行い、地域に開かれた大学として、近隣地域との連帯感を醸成することにもつながりました。

心配されたお天気も、教職員の熱意により、なんとか清掃終了まで持ちこたえました。

大学構内だけでなく、これまで見過ごしていた周辺の整備修繕箇所なども点検でき、より一層気持ちよく過ごせるキャンパスになるよう参加者は励んでいました。



キャンパスの外周道路を清掃する教職員



## ◆ 日本フルブライトメモリアル基金米国教育者訪問団が来学

平成20年6月16日（月）、FMF訪問団10名が茨城大学を訪れ、学長への表敬訪問後、茨城大学教育学部教員および学生との意見交換・交流を図りました。

前半の全体会議では、小野教育学部副学部長による挨拶とFMF代表による挨拶の後、本学の教員養成に関する役割と現状及び今後の課題などについての説明が行われました。

続いて、教育学部竝木教授（英語教育）による英文資料に基づく説明があり、FMF訪問団との質疑応答が交わされました。

後半は3つの分科会に分かれ、主として学生との意見交換・交流が行われました。本学学生はアメリカ人教師と、教育実習、学生生活、将来の夢等に関し積極的に意見を交換し、交流していました。全体会議では一部通訳による日本語使用もありましたが、分科会も含め基本的には英語によって話し合いが行われ、半日という限られた時間ではありましたが、FMF訪問団との国際交流を通して大変有意義な時間を過ごすことができました。



教育学部学生を交えた分科会



フルブライトメモリアル基金米国教育者訪問団一行と菊池学長

## ◆ 学生による自主企画展示「文字をさわろう！」を開催

文字の歴史の変遷をたどる「文字をさわろう！」展が6月21日から29日まで図書館本館ロビーにて開催された。この展示会は、茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科歴史・文化遺産コースの学生約15人が自主的に企画、開催したもので、五浦美術文化研究所の後援を受けて実現しました。

「参観者が、実際に手にとって見る事が出来る」というコンセプトに基づき、学生や教員の手作りで復元された甲骨や木簡、印章、銅鏡、古文書、高札など、中国と日本の文字資料のレプリカが陳列されました。

一般的な博物館での、ガラスケース越しの参観では味わえない「重さ」や「手触り」を実感できる楽しさから、会場は、学内だけでなく一般市民や高校生などでにぎわいました。

新聞やテレビなどでも取り上げられ、代表の岡沙織さんは「食肉公社から本物の牛骨をもらうなどして、資料を元に先生方のご協力を戴いて制作した。教科書でしか見る事の出来ない資料に実際に触れてもらい、昔の人がどんな気持ちで文字に親しんできたかを感じてもらいたかった。盲学校の方々にも喜んでもらえたのが嬉しい。」と、短期間の催しにも関わらず参観者数543名という盛況に笑顔を見せていました。



学生たちによって復元された高札や貨幣



楽しそうに展示に見入る高校生



学外の参観者も多数みられた

## ◆ 役員と同窓会連合会との懇談会（第2回）を開催

平成20年6月23日（月）12:00から役員と茨城大学同窓会連合会との第2回目の懇談会を事務局会議室において開催しました。

この懇談会は茨城大学同窓会連合会の事業の1つである「茨城大学との連携及び協力」の一環として、毎年1回開催しております。

懇談会では、大学側から平成19年度業績評価、キャンパス整備状況、大学院改組の取組みや本学教員・卒業生の活躍状況についての報告があり、引き続き、各同窓会会長から各同窓会の近況報告や要望等の意見が提示されました。

今回の懇談では今後の取組みとして、ホームカミングディ（茨城大学主催）開催に向けた検討を進めることが了承され、今後も大学発展のために情報を共有し、「連携及び協力」体制の強化を図ることになりました。



懇談会終了後の記念撮影



挨拶をする室伏会長（中央）左は菊池学長

## ◆ 茨城大学名誉教授称号授与式

平成20年6月26日(木)開催の教育研究評議会において、平成19年度茨城大学名誉教授として、下記の先生方16名が決定され7月10日(木)事務局会議室に於いて関係者ご列席のもと、名誉教授称号授与式が執り行われました。

### 記

元官職名	氏名	元官職名	氏名
人文学部 教授	しまおか すずむ 島岡 将	理学部 教授	やまだ みつる 山田 満
人文学部 教授	たむら たけお 田村 武夫	工学部 教授	えだ ひろし 江田 弘
人文学部 教授	いじま ひろゆき 井島 宏幸	工学部 教授	たけうち まなぶ 竹内 學
人文学部 教授	あいざわよしひさ 相澤 敬久	工学部 教授	なかもとつお 中本 律男
教育学部 教授	やまもと ひろし 山本 宏	工学部 教授	はままつ よしお 濱松 芳夫
教育学部 教授	まえかわしょうぞう 前川 捷三	農学部 教授	こすぎやま もとあき 小杉山 基昭
教育学部 教授	えばた ひろし 江幡 裕	農学部 教授	まちだ たけみ 町田 武美
教育学部 教授	はせがわ さとし 長谷川 敏	農学部 教授	きのせ こういち 木ノ瀬 紘一



称号記を授与された名誉教授の方々

## ◇ 体育祭開催

第59回体育祭が、6月28日（土）に水戸キャンパス第2グラウンドで開催されました。この体育祭は教育学部学校教育教員養成課程体育専攻の学生を中心とした体育祭実行委員会の企画によって毎年行われています。競技は、サークル対抗リレー、綱引き、借り人競走、校内マラソンなど、アイデアとバラエティに富んだ内容の全9種目。体育系サークルを中心に12団体、総数150名の参加学生が紅白に分かれ熱戦を繰り広げました。閉会式では優勝した白組と MVP に選ばれた学生に賞状とカップ等が授与された後、松坂審判長（教育学部教授・保健体育教室主任）から講評をいただきました。最後は男子学生の応援団長による参加学生の健闘を称える力強いエールと、参加者全員による校歌斉唱で幕を閉じました。



## ◆ 図書館でマヤ文明展・講演会を開催

図書館（本館）では、平成20年7月2日から26日まで、人文学部青山和夫教授の日本学士院学術奨励賞受賞を記念して、ロビー展示「マヤ文明-世界は四大文明だけではなく-」を開催しました。

受賞対象となった「古典期マヤ人の日常生活と政治経済組織の研究」の内容をわかりやすく紹介するもので、マヤ文明展の開催は大学では全国初です。

2日、小野寺図書館副館長の進行によりオープニングセレモニーが開かれ、テープカットや青山先生ご自身による展示内容の説明が行われました。

5日（土）には青山先生の講演会が行なわれ、暑い中を地域の方を中心に予想を大きく上回る約200名が参加しました。ウェルカムコーヒーサービスで始まり、約1時間にわたって熱く語られた青山先生の講演中には、時々笑い声がおこり、参加者は「現在進行形で生きているマヤの文化」に触れることができました。参加した市民から「考古学に興味があり、専門的な話を聞いて良かった。」「町内の回覧板で知り、はじめて大学の構内に入った。」「30年ぶりに母校に来るきっかけになった。」などの感想をいただきました。

この展示や講演会は、青山先生の「マヤ研究の成果を地域に還元したい」というお考えと、地域の方の「気軽に大学の学術成果に接したい」という期待の双方に応える絶好の機会となりました。

図書館では、さらに地域と大学の交流の場として活動するために、学内プロジェクト等の新たな企画に取り組んでいます。



テープカットをする左から 山形図書館長、菊池学長、青山教授、田中人文学部長

## ◆ 第1回阿見町・茨城大学農学部連携ワークショップを開催

2008年7月7日（月）の13:00～15:00、阿見町役場3階305会議室において「阿見町における農産物地産地消推進に関するワークショップ」が阿見町と茨城大学農学部との共催で開催されました（司会進行は安江健農学部准教授）。出席者は市民団体、阿見町、大学関係者ら25名。

今回のワークショップは「阿見町の農産物地産地消推進」をキーワードに、町・大学・市民の間で共通理解を醸成するための情報交換を主たる目的に開催されたものです。

本年度から実施される茨城県の事業である「エコ農業茨城」の概要を県南地方総合事務所の渡辺農業課長補佐が説明後、「阿見町の地産地消推進」のための過去および現在の町の取り組み状況について担当者が説明しました。補足として阿見町農業推進会議に参画してアイデアを出した学生からもその経緯などについての説明がありました。

これらの情報交換の中で、「阿見町農産物推奨シール」の更なる活用法についての意見が出たほか、阿見町が「地場農産物活用検討推進会議」を組織し、過去2年間にわたり「学校給食の活用」に取り組んでおり、「地産地消推進」のための方策として学校給食の活用が有効かつ早道であることなどが確認できました。このワークショップは今後も開催され、町と大学が連携し地元の農業政策推進を諮っていく予定です。



共通理解を深める出席者

## ◆ 農学部—東京医大霞ヶ浦病院「第1回研究交流セミナー」開催

農学部は7月10日、東京医科大学霞ヶ浦病院との連携協力協定に基づき、第1回研究交流セミナーを農学部第一会議室で開催、約60名の両大学関係者・茨大学生が参加しました。

初めに中島紀一茨大農学部長及び松岡健東京医大霞ヶ浦病院長の挨拶があり、両大学間の連携強化を推進していくことの豊富が述べられました。

セミナーでは、東京医大霞ヶ浦病院の永瀬晃正講師・村上智史研究員から「糖尿病網膜症の発症関連遺伝子および成因の研究」、茨大農学部の長南茂准教授から「コエンザイムA生成系調節機構の解明および細胞内コエンザイムAの動態解析」についての研究紹介があり質疑では、様々な意見が出されました。

続いて、安西弘行教授の案内により遺伝子実験施設の見学が行われ、セミナー後には、両大学間の研究者懇談会等が同窓会館（霞光荘）で開催され全員の自己紹介と活発な情報交換が行われました。



セミナーでの研究紹介

## ◆ 農学部でオープンキャンパスを開催

農学部では、7月20日（日）阿見キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催しました。これは、農学部が水戸キャンパスから離れており、学部独自の企画として、阿見キャンパスにおいて、農学部を紹介するために毎年開催しているものです。

広報委員会が中心となり、ホームページの充実、リーフレットの作成・配布、高校訪問などPR活動を行ったこともあり、当日は、約500名の高校生、保護者の訪問がありました。

内容は、昨年度同様、入試説明、学部紹介、在学生による学生生活の説明、保護者との懇談会、学校教員との懇談会、公開模擬授業、施設・研究室見学、入試相談コーナー、学生による研究紹介など、盛りだくさんの企画を準備しました。

参加者は、積極的に各企画に参加し、人気の「研究室訪問」では、公開中の研究室で実験体験を通じて、大学生との交流を持つ貴重な体験が得る機会となりました。

また、「保護者との懇談会」では、昨年度に比べて出席者数が増え、積極的に質問が寄せられるなど、保護者らの受験に対する強い関心を伺い知ることができました。「学校教員との懇談会」では、19名の高校の先生と懇談を行い、今年の入試に関して質問、意見交換を行いました。



## ◆ 工学部でオープンキャンパスを開催

工学部では、平成 20 年 7 月 21 日(土)に、日立キャンパスでオープンキャンパスを開催しました。

午前は「学部紹介と入試説明」午後は「各学科に分かれての学科説明会および施設見学」を 2 回に分けて実施することにより、内容豊富な企画となりました。

当日は天気にも恵まれ、早朝より熱心な高校生が来学し、受付には列ができる状況でした。高校生、御父兄を中心に来訪者は全体で 600 名以上となり、昨年に比べ大幅(30%増)な増加となりました。

特に、午後の各学科主催の説明会及び施設見学会では、去る 5 月に開催された「工学祭」で、すでに顔馴染みとなった本学教員および学生とのあいだで和やかな会話がかわされると共に、熱のこもった意見交換が行われました。全体として参加いただいた高校生の反響はとても大きいものでした。



早朝から列をなす受け付けデスク



学科説明会、見学会で熱心に説明に聞き入る高校生

## ◆ 2008茨城大学オープンキャンパス

本学では、7月26日（土）にオープンキャンパスを開催しました。23回目の開催となる今年も昨年に引き続き、「水戸キャンパス」「茨城県武道館」の二会場での実施となりましたが、昨年をさらに上回る5,704名の高校生及び保護者を迎えることができました。

当日は、9時のオープン前から続々と元気な高校生たちの来場があり、菊池学長をはじめ役員が正門で出迎え、入学案内及び入試関係各種資料を手渡し、歓迎しました。

学部紹介、公開授業、保護者説明会をはじめ、入試相談、学園生活あるいは就職に関する各種相談及び情報提供コーナー、入学試験の過去問題開示コーナーなど、どの会場の教室も多数参加がありました。

改修工事の終わった新しい建物に来場者をお迎えするという事で、各会場スタッフ及び約100名の学生スタッフも昨年以上に気合いの入った対応で、15時の終了時間まで盛況のうちに無事終了することができました。



高校生に資料を手渡す菊池学長

## ◆ 農学部で「特別講演会」・「平成20年度第1回FD研修会」を開催

農学部では、7月23日（水）福利厚生施設（こぶし会館）研修室において特別講演会を開催しました。本特別講演会は、農学部FD委員会の発議により農学分野における政策的な課題についての講演を企画し、教育・研究のさらなる改善や展開を促進する目的で、教職員に対してはFD研修会として位置付けた。

中島紀一農学部長の挨拶のあと、農林水産省大臣官房企画評価課の郡健次企画官が「最近の食料問題と自給率向上への課題」と題して、日本における食料とそれを生産する農業をめぐる問題について世界的な問題も含めて約70分間講演した。引き続き行われた質疑応答では、農水省としての農学教育への支援策や農業の担い手に対する支援などの質問が出され活発な討議が行なわれた。参加者は54名、学生の参加もあり普段の講義とは違った視点の話を熱心に聞いていた。



講演する郡健次企画官（農林水産省大臣官房企画評価課）

## ◆ 茨城県教育委員会と茨城大学教育学部との連絡協議会

教育学部では、去る7月31日（木）に「平成20年度茨城県教育委員会と茨城大学教育学部との連絡協議会」を教育学部A棟2階プレゼンテーションルームにおいて開催しました。

同協議会は、地域の教育及び教員養成に関わる諸問題並びに教員の資質向上等を図ることを目的として、平成12年度に設置されたものです。

教育委員会側から鈴木教育長、福田教育次長、中原教育次長、関係各課長等12名が、大学側は田代学部長、小野副学部長、尾崎副学部長、山根副学部長、関係各種委員会委員長等19名が出席し、①教員免許更新講習について、②茨城大学附属学校における主幹教諭について等に活発な意見交換が行われ、相互の連携協力の一層の推進を図り、今後、同協議会を更に充実させることで一致しました。



連絡協議会の様子